

秋田工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	建築デザイン演習Ⅴ	
科目基礎情報							
科目番号		0061		科目区分		専門 / 必修	
授業形態		演習		単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科		創造システム工学科 (土木・建築系)		対象学年		3	
開設期		後期		週時間数		2	
教科書/教材		教科書: 「コンパクト設計資料集成」日本建築学会編 丸善, 「初めて学ぶ建築製図」建築のテキスト編集委員会 学芸出版社, その他: 必要資料を適宜配布する。					
担当教員		井上 誠,鎌田 光明					
到達目標							
1. 計画敷地の特性を読み取ることが出来る。 2. 計画的な面を考慮し、図面を過不足なく描ける。 3. 空間的な面を考慮し、空間を提案できる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		計画敷地の特性をサーベイを通して周辺を含め読み取ることが出来る。		計画敷地の特性を読み取ることが出来る。		計画敷地の特性を読み取ることが出来ない。	
評価項目2		計画的な面を考慮し、図面を過不足なく描け、美しいレイアウトが作成できる。		計画的な面を考慮し、図面を過不足なく描ける。		計画的な面を考慮し、図面を過不足なく描けない。	
評価項目3		空間的な面を考慮し、ヒューマンな視点から空間を提案できる。		空間的な面を考慮し、空間を提案できる。		空間的な面を考慮し、空間を提案できない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		建築設計で用いる基本的な製図方法と図面のきまり、表現方法を整理し、分かりやすい建築図面の作成を修得する。建築設計を遂行する上で必要な諸機能の整理、面積の調整など、企画からプレゼンテーションまでの、一連の作業を修得する。 敷地条件から使用者、社会、気候風土との関係を読み取り、公共性の高い空間の設計を修得する。					
授業の進め方・方法		各課題のはじめに講義を行ない、その後、演習形式を中心に行なう。 必要に応じて、エスキースの提出など、進行状況が把握できるものの提出を求める。 最終的な図面が合格基準に達しない場合、再提出を課すことがある。					
注意点		合格点は50点である。 総合評価は、各課題の評価を全体の80% (最終提出60%、中間提出20%) とし、態度を20%として評価する。特に、レポートや課題の未提出者は単位取得が困難となるので注意すること。					
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス・公共広場の設計1: 課題説明			公共広場の課題が理解できる。	
		2週	公共広場の設計2: レポートチェック 提出			公共広場のレポートが提出できる。	
		3週	公共広場の設計3: エスキース			公共広場の計画ができる。	
		4週	公共広場の設計4: 中間チェック1 提出			公共広場の計画が提出できる。	
		5週	公共広場の設計5: 第一課題最終提出			公共広場の設計が提出できる。	
		6週	小学校の設計1: 公共広場の設計講評会・課題説明および計画上の概要			小学校の課題および計画上の概要が理解できる。	
		7週	小学校の設計2: レポートチェック 提出			小学校に関するレポートが提出できる。	
		8週	小学校の設計3: エスキース			小学校の計画ができる。	
	4thQ	9週	小学校の設計4: 中間チェック2 提出			小学校の計画が提出及び説明ができる。	
		10週	小学校の設計5: 中間チェック2			小学校の計画が説明ができる。設計ができる。	
		11週	小学校の設計6: エスキース			小学校の設計及びプレゼンテーションボードの作成ができる。	
		12週	小学校の設計7: エスキース			小学校の設計及びプレゼンテーションボードの作成ができる。	
		13週	小学校の設計8: 第二課題最終提出			小学校の設計及びプレゼンテーションボードの作成ができる。	
		14週	小学校の設計9: 講評会1			自分の設計のプレゼンテーションができ、他者の説明が理解できる。	
		15週	小学校の設計10: 講評会2			自分の設計のプレゼンテーションができ、他者の説明が理解できる。	
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建設系分野	製図	線と文字の種類を説明できる。		3	
				平面図形と投影図の描き方について、説明できる。		3	
				CADソフトウェアの機能を説明できる。		3	
				図形要素の作成と修正について、説明できる。		3	
				画層の管理を説明できる。		3	
				図の配置、尺度、表題欄、寸法と寸法線の規約について、説明できる。		3	
				与えられた条件を基に設計計算ができる。		3	
				設計した物をCADソフトで描くことができる。		3	

		建築系分野	設計・製図	製図用具の特性を理解し、使用できる。	3	
				線の描き分け(3種類程度)ができる。	3	
				文字・寸法の記入を理解し、実践できる。	3	
				建築の各種図面の意味を理解し、描けること。	3	
				図面の種類別の各種図の配置を理解している。	3	
				図面の尺度・縮尺について理解し、図面の作図に反映できる。	3	
				立体的な発想とその表現(例えば、正投象、単面投象、透視投象などを用い)ができる。	3	
				ソフトウェアを用い、各種建築図面を作成できる。	3	
				各種模型材料(例えば、紙、木、スチレンボードなど)を用い、図面をもとに模型を製作できる。または、BIMなどの3D-CADにより建築モデルを作成できる。	3	
				与えられた条件をもとに、コンセプトがまとめられる。	3	
				与えられた条件をもとに、動線・ゾーニングのエスキスができる。	3	
				与えられた条件をもとに、配置図、各階平面図、立面図、断面図などがかける。	3	
				設計した建築物の模型またはパースなどを製作できる。	3	
				講評会等において、コンセプトなどをまとめ、プレゼンテーションができる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	20	0	80	100
基礎的能力	0	0	0	20	0	30	50
専門的能力	0	0	0	0	0	30	30
分野横断的能力	0	0	0	0	0	20	20